

取得までの道のりとその後

◎福井 直希¹⁾

地方独立行政法人 大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター¹⁾

【はじめに】

認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師は生化学・免疫分野における唯一の認定資格である。2014年に制定されたが、他分野の認定資格と比較しても歴史が浅く取得者が少ないことから、本資格に対する情報が不足しており、生化学・免疫担当者の中でも取得を目指している人が多いとは言えないのが現状ではないだろうか。今回、私がなぜ本資格を目指したのか、どのように勉強したのか、取得後どう活かしたのかについて実体験を交えて紹介する。

【取得の動機】

本分野は機械化や自動化が進んでおり、精度管理についても成熟されてきていることから知識・技術を発揮する場面も少なくモチベーションを保つことが難しくなっている。機器の更新やISO15189取得を契機に精度管理を一から再構築することとなり、根本から学び直そうと考えた。基本に沿った学習を求めた結果、本資格の存在を知り、取得することで自身の精度保証技術を明確化しようと思ったのが動機である。

【勉強法・内容】

受験資格の前提条件として、日臨技や臨床化学会主催の指定講習会を受講する必要がある。認定試験のカリキュラムや出題範囲は日臨技ホームページで公開されており、3種類のテキストが指定されている。まず、カリキュラムの項目がテキストおよび指定講習会資料のどこに記載されているかを把握することで効率よく学習することができた。さらに不明点の洗い出しや復習も兼ねて日臨技eラーニングの「精度管理責任者育成講習」の受講は有用となった。講演では、カリキュラムの【A】【B】【C】区分を図式化し例題を提示することで本資格のイメージを明確にしたい。

【取得の利点と今後】

まず学習中も精度管理を含む日常業務を意識することでその意義を深く理解しながら進めることができ、これは後進の育成においても一つ一つがなぜ業務に必要なかわかりやすい説明が可能となる。また本資格を取得することで、精度管理に関する知識の向上と自信に繋がり内部・外部精度管理や試薬導入時の検証において、リーダーシップを発揮し改善活動を進めることができた。さらに精度管理だけでなく、検査の依頼から検査値の解釈を示す精度保証の重要性についても学ぶことができ、結果解釈に必要な補正值の追加報告を行うなど、検査部と臨床を繋ぐ活動にも貢献できた。様々な業務改善を行うことで、本分野の日常業務の根底には精度保証という技術が存在し、それにより成り立っていることを感じた。

生化学・免疫分野の主要な業務は精度管理であるが、技術として認識されにくい。例えば生理では超音波検査士、病理では細胞検査士が技術を証明するものであるとの認識が一般的である。これらの違いの原因は認知度と普及率であり、今後本資格を取得することで精度保証を深く理解し、今まで不透明だった精度管理という技術が明確になることで、次世代の目標となり本分野の発展に繋がると思われる。

【まとめ】

精度保証技術で日々の検査を構築、改善し臨床へ貢献していくことは、本分野における自身のモチベーション向上にも繋がると考える。

本ワークショップを通して、一人でも多くの方の認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師を目指すきっかけになれば幸いである。

連絡先:大阪市立総合医療センター 医療技術部 臨床検査部門 06-6929-1221